

佐藤は、預金残高を確認するために、銀行に電話を入れた。

「ありがとうございます。湘南信用金庫杉田支店でございます」

「あの、通帳の残高を確認したいのですが」

「かしこまりました。それでは、折り返しお電話でお知らせすることになります  
が、よろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「それでは、お口座番号とお名前をお願いします」

「はい、普通預金の三八三九三五―、佐藤浩です」

「お届けになっているご住所と、お電話番号をお願いします」

「住所は横浜市栄区本郷台八―三―三七、電話番号が〇四五―三六一―八四三八  
です」

「〇四五―三六一―八四三八ですね。かしこまりました。私、細田と申します。  
すぐにお調べして折り返しお電話いたしますのでお待ち下さいませ」

「はい、わかりました。ではよろしくお願いします」

受話器を置いてから数分後、電話が鳴った。

「はい、佐藤です」

「もしもし、湘南信用金庫杉田支店の細田と申しますが、佐藤浩様でいらっしゃ  
いますか？」

「はい、そうです」

「先程お問い合わせいただきましたきました、普通預金残高を申し上げますがよろしいで  
すか？」

「はい、お願いします」

佐藤はあわててメモの用意をした。

「ただ今の残高、八十八万三千三百一円となっております」

「八十八万三千三百一円ですか？ ええと、振込が一件あったと思うんですが」

「そうですか。どちら様からおいくらのお振込ですか？」

「鈴木肇という人から三万八千円振り込まれているはずですよ」

「それでは振込の確認をしてみますので、少々お待ち下さい」

受話器からは保留メロディが流れ、数十秒後・・・

「大変お待ちいたしました。ただ今お調べしてみました。鈴木肇様からのお  
振込は、今のところないようです」

「確かに昨日、手続きを済ませたと言っていたんですけど」

「電信振込か文書振込、どちらで手続きされたかご存知ですか？」

「いいえ、わかりません」

「電信扱いですと当日入金になります。文書扱いですと入金までに多少お時間を  
いただくことになりますので、おそらく鈴木様は文書扱いで振り込まれたので  
はないでしょうか？」

「そうかもしれません。ではその場合、入金されるのはいつ頃になりますか？」

「通常は二、三日で入金となります」

「そうですか。早ければ明日には入金されるかもしれませんね。ではまた明日、  
確認してみます」

佐藤は少しホッとした表情で受話器を置いた。